10のまとまりで考える計算

大人向け｜答えと説明 1〜3：たし算

児童用の同じ問題番号に対応します。下は考え方の例です。別の分け方や、正しい計算の説明も受け止めてください。

（1）８ ＋ ５ ＝ 13

例A：5を2と3に分け、8＋2＝10、10＋3＝13。
例B：8を3と5に分け、5＋5＝10、10＋3＝13。
声かけ：「8には、あといくつ足すと10になる？」

（2）６ ＋ ７ ＝ 13

例A：7を4と3に分け、6＋4＝10、10＋3＝13。
例B：6を3と3に分け、7＋3＝10、10＋3＝13。
声かけ：「7と合わせて10にするなら、6をどう分ける？」

（3）９ ＋ ３ ＝ 12

例A：3を1と2に分け、9＋1＝10、10＋2＝12。
例B：9を7と2に分け、3＋7＝10、10＋2＝12。
声かけ：「10を作ったあと、まだ足していない数はどれ？」

進め方：学校で繰り上がりのたし算を扱った後に、1問から使えます。ひき算のページは、繰り下がりを扱ってから選んでください。両ページを一度に終える必要はありません。

見るところ：分けた数を足すと元の数になるか、10を作った後の残りを足したかを、記入した数や本人の説明で確かめます。

10のまとまりで考える計算

大人向け｜答えと説明 4〜6：ひき算

ひき算は「10から引いて残りを合わせる方法」と「先に10まで引く方法」を例示します。どちらか一方に固定しません。

（4）14 − 6 ＝ 8

例A：14を10と4に分け、10−6＝4、4＋4＝8。
例B：6を4と2に分け、14−4＝10、10−2＝8。
声かけ：「10から引いた残りと、もとの4はどうする？」

（5）13 − 8 ＝ 5

例A：13を10と3に分け、10−8＝2、2＋3＝5。
例B：8を3と5に分け、13−3＝10、10−5＝5。
声かけ：「先に3を引いたら、8のうちいくつを引いた？」

（6）15 − 8 ＝ 7

例A：15を10と5に分け、10−8＝2、2＋5＝7。
例B：8を5と3に分け、15−5＝10、10−3＝7。
声かけ：「8を全部引けたか、引いた数を足して確かめよう。」

見るところ：14−6で10−6＝4まで書いて止まったときは、もとの14のうち残っている4も確かめます。先に10まで引く方法では、引く数を二重に使っていないかを見ます。

答えだけで理解を判定しません。書く負担が大きいときは口頭の説明を大人が記録してもかまいません。指を使う方法も否定せず、数の分け方を一緒に確かめます。

対象内容：文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」第1学年 A(2)。問題・説明は独自作成。AIを用いて作成・検算しています。授業実践・児童の試用・教育効果・専門家監修は未確認です。